

研究者：松本 拓也（所属：東京医科歯科大学 国際歯科保健スタディグループ）

研究題目：タイ歯科研修ツアー

目的：

本事業は、歯科学生が海外の歯科事情を知り、他国の歯科学生とネットワークを形成することによって、歯科医療における国際協力の在り方について考えることを目的としている。

対象および方法：

対象：歯学科4年生 6名

口腔保健学科4年生 4名

期間：2012年9月3日～10日 8日間

場所：タイ王国（バンコク）、CU - TMDU 研究教育協力センター

内容：

- ・チュラロンコーン大学（CU）とシーナカリンウィロット大学（SWU）の歯学部学生と交流を行う。
- ・タイの教員による英語の講義を受ける。
- ・大学付属病院、開業歯科医院において現場視察を行い、タイの歯科保健医療状況について理解する。
- ・SENDプログラム（Student Exchange Nippon Discovery）に参加し、現地の日本語を学習している学生と交流し、日本文化の紹介を行うと同時に、タイの文化、言葉、慣習を学び、国際理解を深める。
- ・タイ在留邦人の幼稚園児40名を対象に歯科健康教育を行う。
- ・教員が実施する在留邦人対象の海外公開講座（歯の健康セミナー・歯の健康相談会）の補助を行う。

結果および考察：

＜歯学部学生との交流＞

今回の研修ツアーではCUとSWUの両大学の歯学部6年生と交流を行った。それぞれの大学の実習、研究室、歯の博物館等を見学させていただいた。どちらの大学でも、歯科学生は日本より早い時期から実習を行い、臨床の現場に触れていることを直接学ぶことができた。

＜タイ教員による講義＞

日本に留学経験のあるタイ教員からタイの歯科保健医療状況に関する講義を受けた。講義の中で、日本とタイの違いを主に3つ感じ取れた。1つ目は、タイの齲蝕罹患率の高さである。バンコクを中心とした都市部での齲蝕罹患率は減少傾向にあるが、地方では逆に増加傾向にあり、地

域格差が広がりつつある。その原因としては、首都であるバンコクとその他の地域の単位人口あたりの歯科医師の数が10倍以上も違うことが挙げられる。しかし、タイ政府は齲蝕罹患率を減らすために様々な活動を行なっている。具体的には、妊婦への歯科保健指導、子供の積極的な歯科健診の実施、TVでの砂糖含有のスナック菓子の宣伝の制限、学校での昼食の後にスナック菓子ではなく果物を与えることなどを行なっている。2つ目の違いは、タイには歯科衛生士という職業はほとんど存在せず、代わりにデンタルナースという職業が存在することである。デンタルナースは保健指導だけでなく、簡単な充填や抜歯等の治療を行える職業である。3つ目は、国民健康保険が日本と異なり、内容が職業により異なることである。政府関係者や公務員への補助は手厚いが、その他の人々への補助は手薄である。このことも、医療格差が生じている原因の1つではないかと感じた。

<大学付属病院、開業歯科医院の見学>

CU, SWUの両大学付属病院と、在留邦人を中心に治療を行なっている開業歯科医院を見学した。大学付属病院では4年生から病院実習を行なっていて、日本の歯科学学生に比べて、臨床の技術を習得している。患者の振り分けの仕方は私の大学と同様に、総合診療部で診察した後に各科に振り分けていた。大学病院では使われている器材も日本製のものが多く、日本とほとんど変わらない臨床の現場に触れることができた。



SWUの学生との交流



CU 附属病院の見学

<SEND プログラムでの日本語学科の学生との交流>

SWUの日本語学科の学生からタイに関する日本語でのプレゼンテーションを聞き、その後、小グループに分かれて日本語文化の紹介、日本語会話をを行った。最後にタイの盆踊りを、日タイの学生が共に楽しく踊り交流した。

日本の文化を海外に広めるだけでなく、日本語や日本の文化について改めて考える良い機会となった。



SEND プログラムでの交流

<幼稚園における歯科健康教育>

バンコクにある在留邦人が通う幼稚園において、歯科健康教育、歯磨き指導を行った。対象が幼稚園児であったので、アンパンマンを用いた簡単なエプロンシアターを行い歯磨きの重要性について伝えた。その後、学生1人に対し園児3人の小グループを作り、園児に日本で予め購入した歯ブラシを配布し、具体的な歯磨き方法を指導した。今回の健康教育では、在留邦人の健康支援に貢献できる良い機会となった。



幼稚園での健康教育



園児への歯磨き指導

<海外公開講座>

在留邦人を対象に、教員が歯の健康に関するセミナーを行った。また、日本人歯科医師（本学の教員）とタイ人の歯科医師がペアとなり、歯と口の悩みや質問に答えた。学生は受付や案内を行うとともに、児童生徒に歯磨き指導を行い、在留邦人の健康支援に貢献した。

今回の研修を通して、日本とは異なる歯科事情や文化を直接、深く体験することができ、国際交流への関心がより一層高まった。また、タイの歯科界を背負っていく学生と交流を行ったことにより、国が違っても、歯科医



タイ学生との交流

療の問題に対して学生が取り組む姿勢は世界共通であることを学べただけでなく、タイの学生の意識の高さを認識し、大変刺激になった。また、日本の中には見えてこないものを、海外研修で実際に自分の目で確認したことで、自らの世界を広げることができた。

本事業は、東京医科歯科大学の歯学科と口腔保健学科の学生と一緒に海外研修する初めての企画であり、研修に参加することで、歯科学生のうちから国際交流を行い、海外の歯科に対する知識を一層深めていきたいと強く思うようになった。

成果発表：報告書の作成および歯学部（歯学科・口腔保健学科）3年生への報告会